



岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)

岡大医学・医療の最前線 11

新医療とベンチャーの役割

前回は、夢のがん治療遺伝子「REIC」によるがん退治イノベーションを実現するために岡山大学発バイオベンチャー「桃太郎源社」を設立することについてお話ししました。

社名の由来は、発見

からがん治療への応用性までの検討をすべて岡山大学で実施してきた「REIC」を中心とした新医療を創造する事業を、岡山で次世代型地域イノベーションとして推進したいからです。

無事に「桃太郎源株式会社代表取締役・塩見均バイオサイエンスリンク社長」の登記が完了、8月17日に産声を上げました。今回は新医療創造のための橋渡し研究での産学官連携と、バイオベンチャーの役割について、桃太郎源社を中心に解説します。

大学における革新的シーズの研究、開発には種々の公的な競争的資金(科学研究費など)が一般的に使われず。最近では、産学官連携の活性化を意図する比較的大型の競争的資金(産学官、厚労省、文科省など)が数多く提案

されるようになっていまず。このことは、大学での研究開発をいかに産業化につなげるかが、科学技術創造立国を目指す日本の政策課題の一つになっていることを意味しています。

国の第3期科学技術基本計画の実現における最重要提案公募型課題文科省初の企業とのマッチングファンドである「先端融合領域イノベーション創出拠点形成事業」に岡山大学からの提案が採択され、現在「標的医療イノベーションセンター・ICONT」を設立して、協働企業7社とともに「ナノバイオ標的医療の融合的創出拠点の形成」事業を展開しています。

「REIC」はこの革新的標的医療における核となるシーズの一つとして、新しい薬物運搬システム(DDS)や先端標識化技術などとの融合による近未来の新医療を提供するものです。

一方、これら新医療の実現可能性と臨床応用性を予測的に検証し得る先行モデルとして「前立腺がんに対するREIC遺伝子発現アデ

ノウイルスベクターによる遺伝子治療臨床研究」は技術的には現時点でも実施可能です。遺伝子治療は今後の新医療創出開発の中心分野の一つと考えられるものの、開発リスクが大きい既存の製薬企業には敬遠されてきました。「REIC」の話にしても、現時点において製薬企業が開発を肩代わりしてくれる可能性はほとんどないと判断

されず、つまり、大

ままだにあるように思います。今回の解説記事の目的は▽研究と事業化とは全く異なる次元に位置すること▽国策である「科学技術の成果を社会・国民に還元する」を



研究開発の産業化による国民の健康寿命の増進

新医療創造橋渡し研究とバイオベンチャー



公文 裕巳 (岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長・泌尿器病理学(専門医))

われらという風潮が、いまだにあるように思います。今回の解説記事の目的は▽研究と事業化とは全く異なる次元に位置すること▽国策である「科学技術の成果を社会・国民に還元する」を